

道祖神

道祖神は神道の神で、村の境界や道の分岐、山道の道端に置かれる石の彫像に宿ります。道祖神は悪霊を寄せ付けない守護者とされ、「塞（さえ）の神」とも呼ばれます。塞とは、悪霊を「阻止」または「妨害」という意味です。

道祖神は日本の多くの地域で見られますが、特に安曇野には数百体もの道祖神があり、その中で一番大きいものは高さ約 2 メートルです。ほとんどの道祖神は自転車か徒歩で簡単に行ける場所にあります。道祖神は、文化財の重要性と、安曇野における田舎の生活様式に息づく伝統的な信仰を垣間見せてくれます。